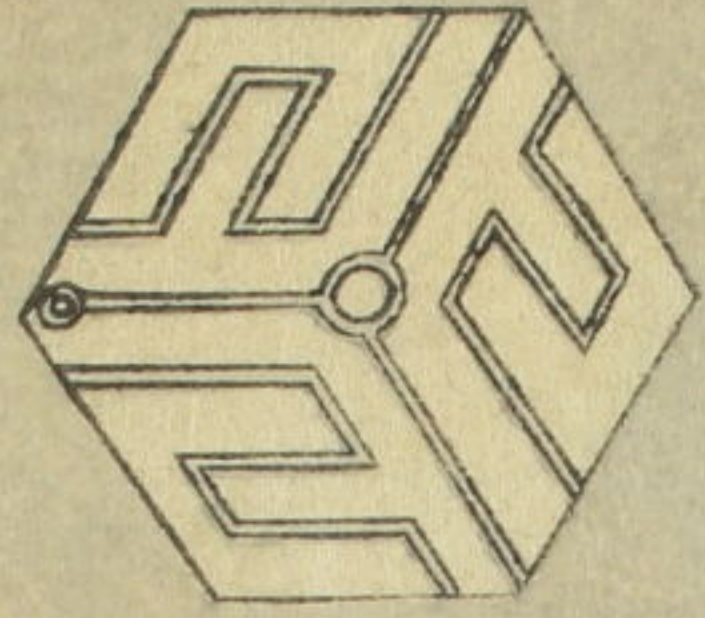


田舎源氏十五



歌川國貞画

柳亭種彦作

山

仙

~ 13
3742
15



十五編下



高橋氏
願

仙若堂

國貞

箱六

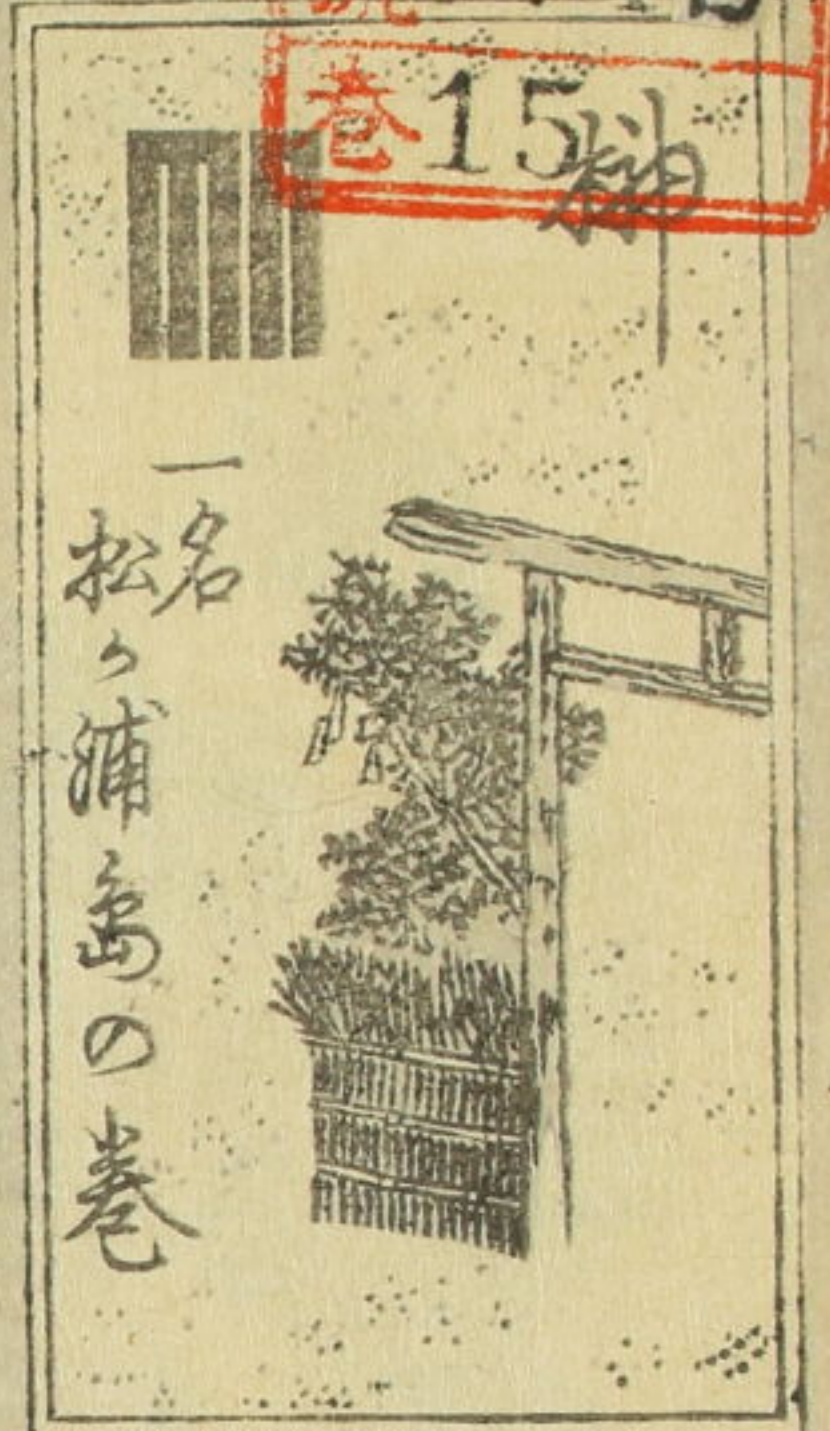
永
繁

十五編上



珠

門へ13
 號3742
 卷15



柳亭種彦作
 歌川國貞画

あせ わらわし 十五編

下冊

倭装
 為夫加
 源氏

あつたかゝる たは
 海方の怪象 松
 とつたかゝる うら
 まうしん

板屋鶴

田舎原氏拾五

田舎源氏錦繪
多ま出の松橋。室町のやうこの夜景。出来
 たりあり。さすの雪。五条のたぐ。なるさうしん
 歌川國貞画

前北齋為一翁画 江戸島大山往來雙六
先年あり 賣ひしあ多く指物しんはなる板を別て紙
 指物 善精密に相装やゆ
 柳亭撰

同翁画 東海道五十三次錦繪
是又佳紙をふとと指物色袋入に装しおきしん清年玉等
 指物しんはなる程奉奉ゆ
 中奉書八ッ切り

考訂大和詞 柳亭校 弄花翁撰

歌舞妓年代記初編拾遺
故馬翁の書りし事どもとある古圖古画をわくうら
 りん悉証を引考へを附しん
 柳亭種彦編

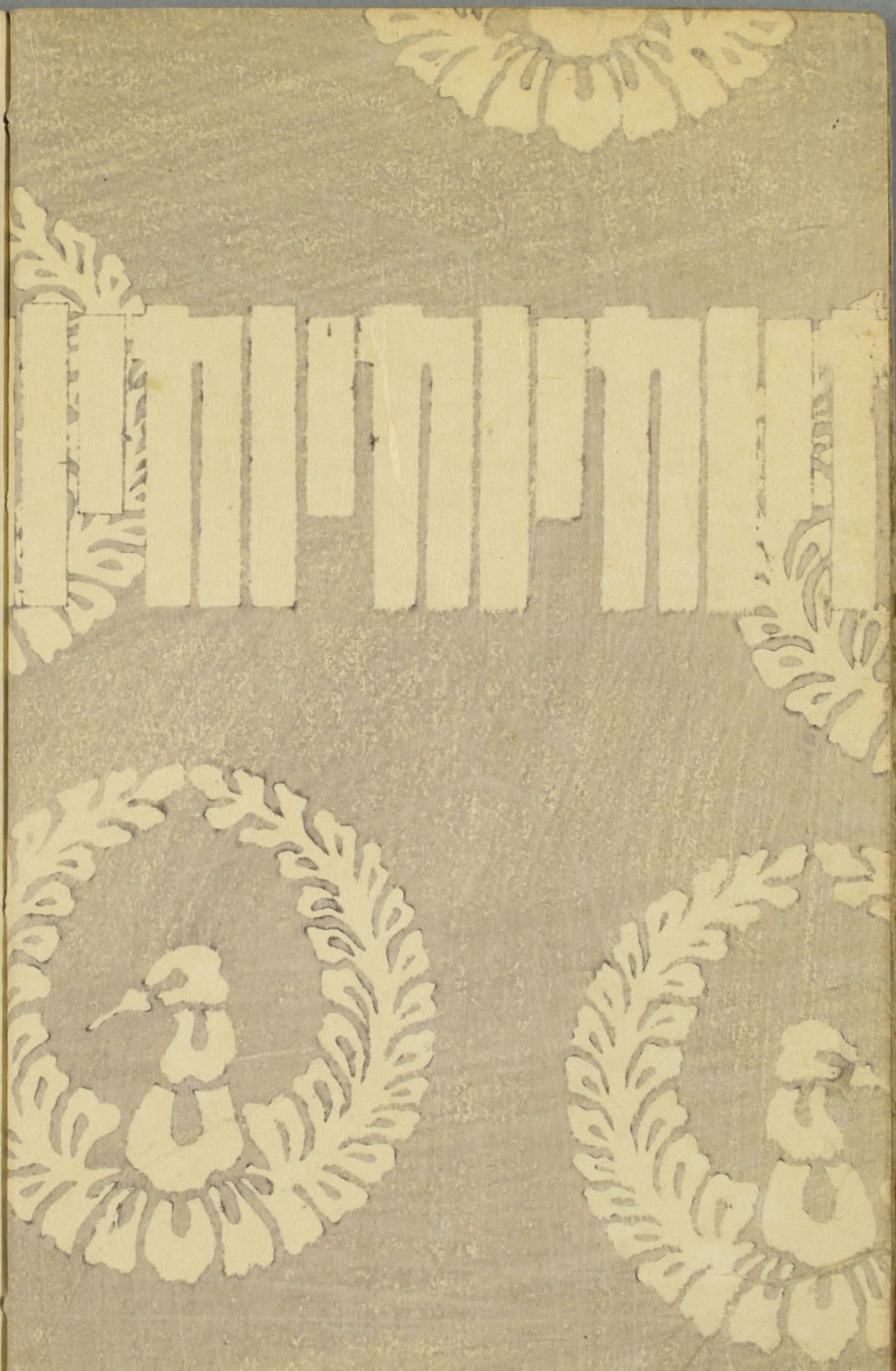
江戸通油町地本書林 仙鶴堂 小林喜右衛門印行

倦ぬ物の葉汁月夜小袖忠臣藏小源氏なれども玉味噌で
 葉汁を喰志忠臣藏も下ふふかると猪よりさき入つては
 遊撃を銃炮場定九郎の名がはのて黒羽二重も本流小芳なり
 あの源氏もその類で傍紫の和る表のうりのころの應仁記の
 隠し裏仕立ひげの七年前新しいさきも羽の艶るき田舎織
 まして名振向の吉着とるう彼紫の色もあせそらく筋のきれかると
 十五編まで送發行色紙は書と發行の贈答はを違ひは揃そ
 はらう襷艶る文を片言の解分衣赤むきう黒小袖も乃及るが
 懸うらむきう季あかきうの夏月夜は須戸の巻服名編乃其
 りの小移らる軽く葉も走らんちるあるちと杉垢の瑤をもあさ
 その候おまろ

柳亭種彦

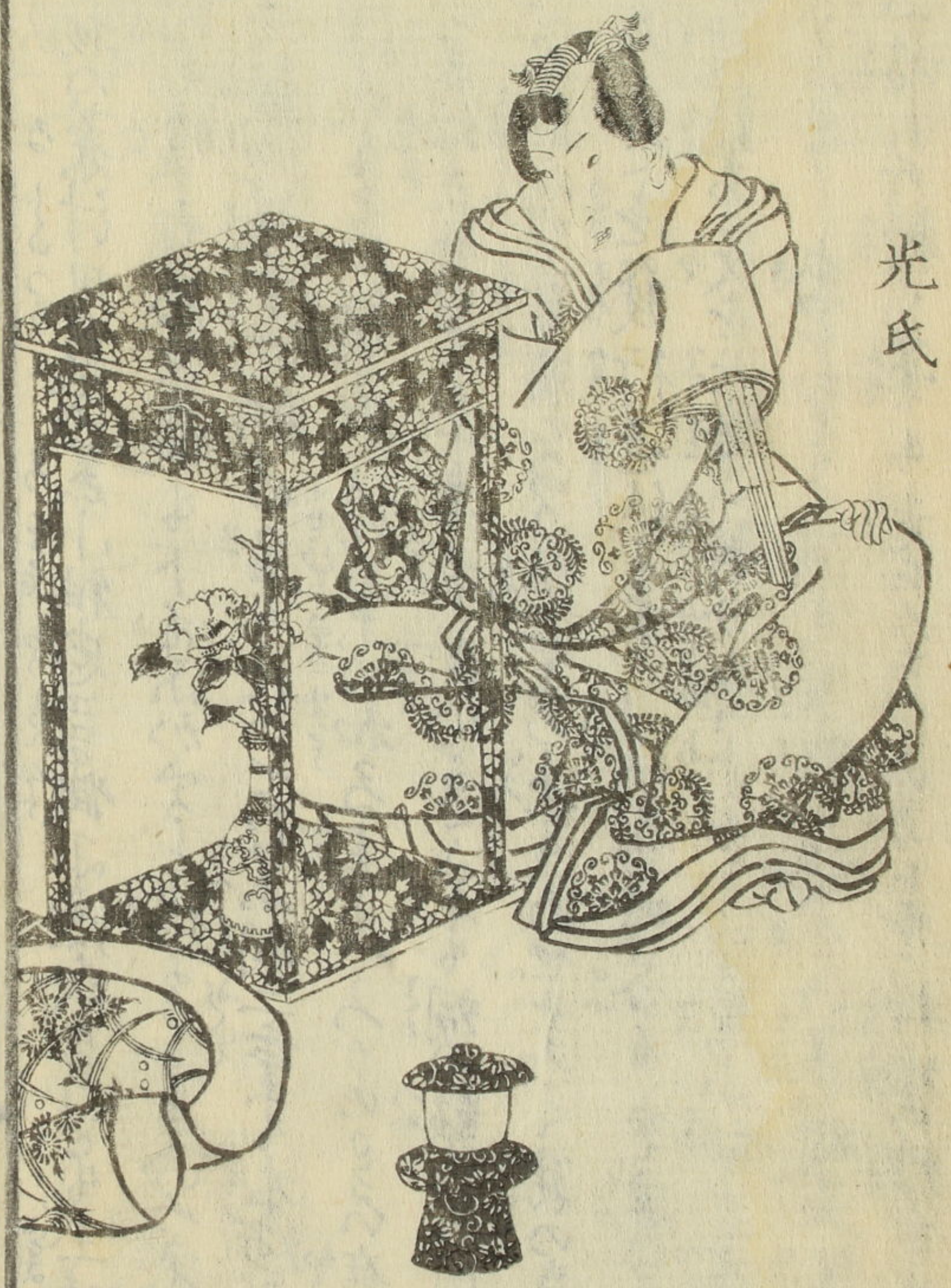
源氏十五編

七



足利

光氏



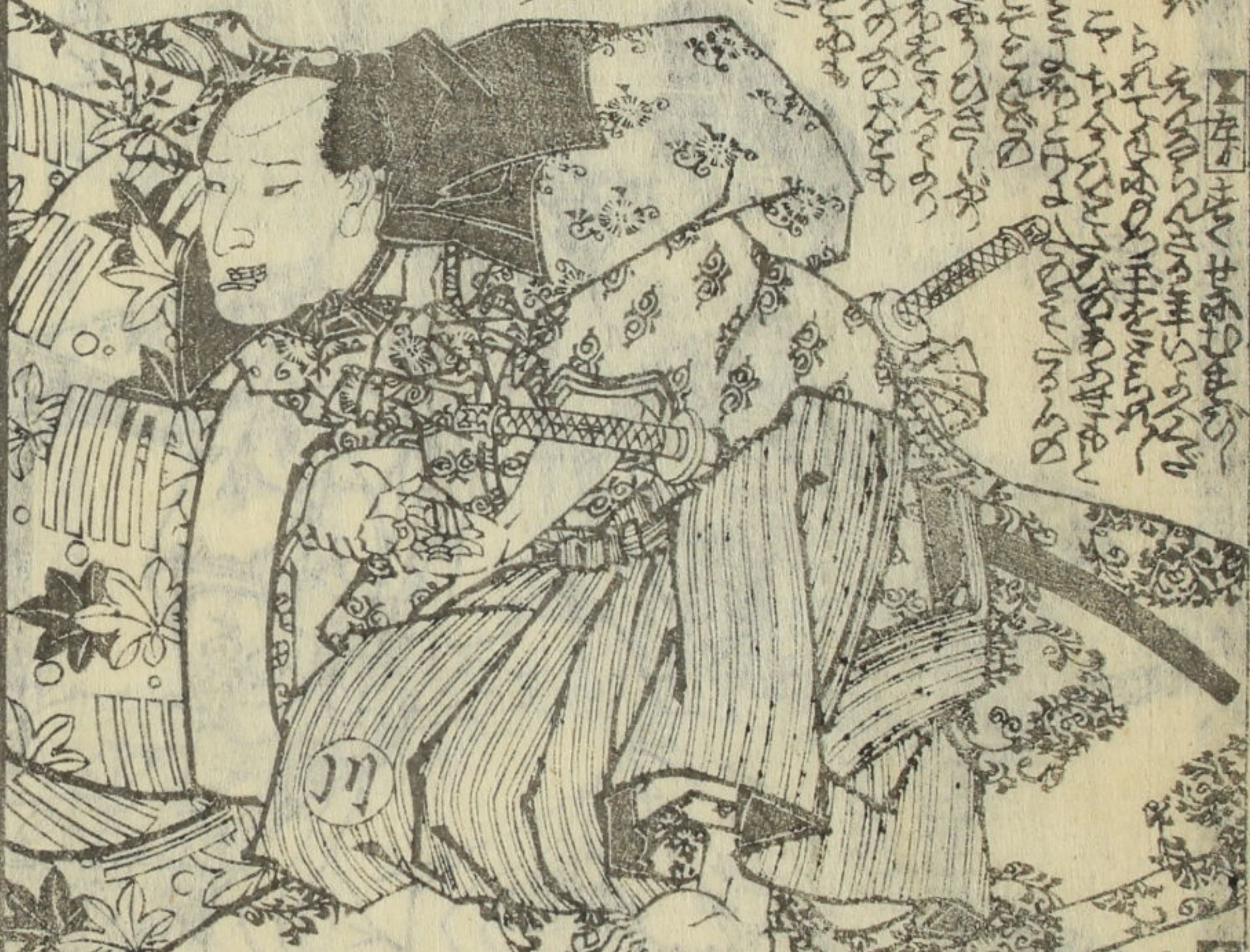
心かろく袖と
 ぬきまふ
 何くとどろ
 ままよつてま
 りけり
 つまらぬて
 せくせりや
 ちのあへ
 けそとる
 へ

桂樹

瘡



源氏物語の巻名と人物名を記した表紙部分の上部に、縦書きで「源氏物語」の文字が記されている。その下に、物語の巻名と登場人物の名前が、縦書きで列挙されている。



この挿絵の下部には、縦書きで物語の一場面を描写する文章が記されている。これは、この挿絵に描かれた人物や出来事に関する説明である。

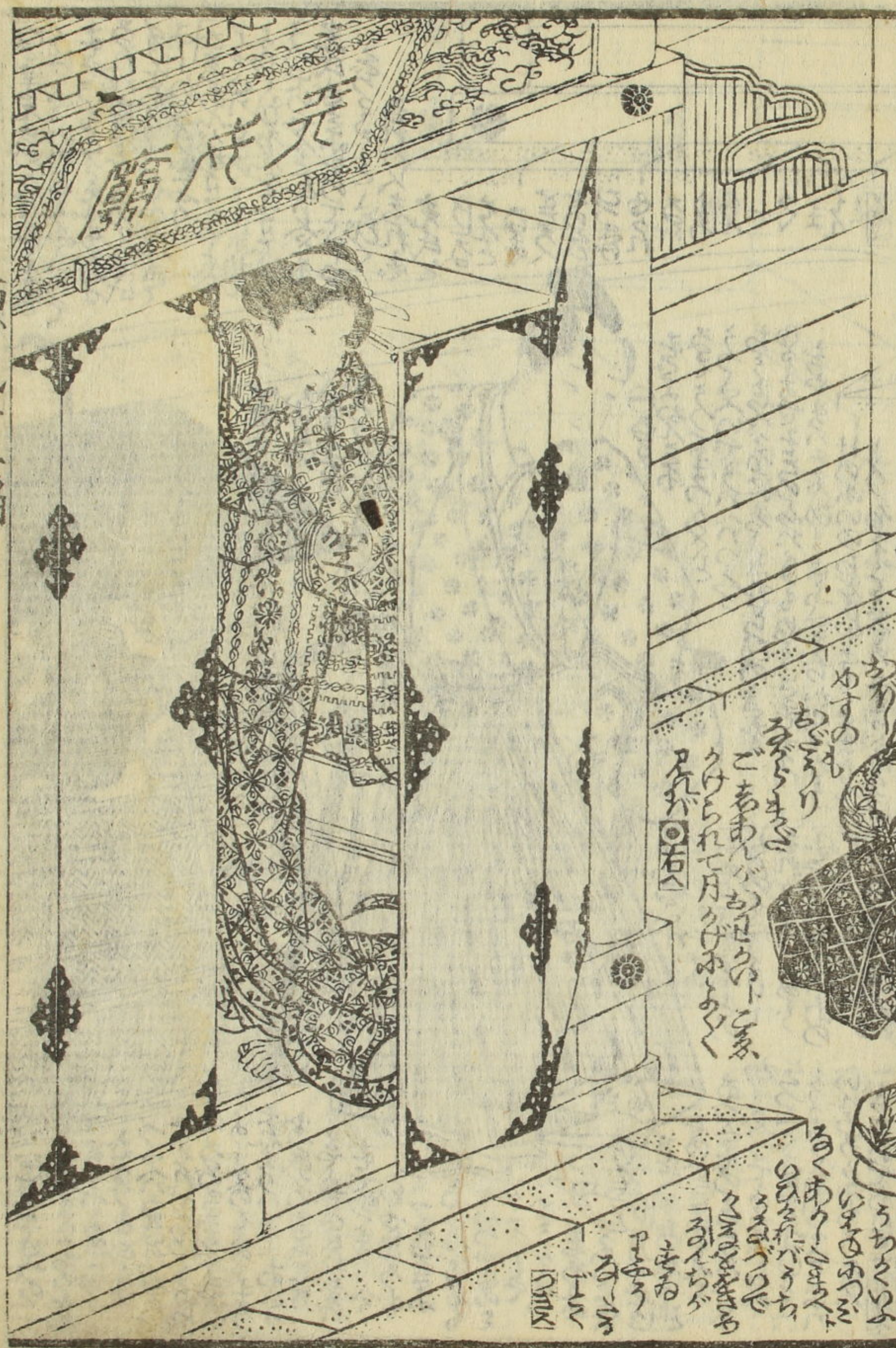


この挿絵の左側には、縦書きで物語の一場面を描写する文章が記されている。これは、この挿絵に描かれた人物や出来事に関する説明である。

この挿絵の下部には、縦書きで物語の一場面を描写する文章が記されている。これは、この挿絵に描かれた人物や出来事に関する説明である。

川流第のまじりしるべ
 上のこゝにまじりしるべ
 ちりりりりりりりりり
 そのまじりしるべ
 あかあか川流第
 そのまじりしるべ
 ちりりりりりりりりり
 ちりりりりりりりりり
 かかかかかかかかかか
 むむむむむむむむむむ
 ああああああああああ
 ああああああああああ
 のああああああああああ
 うううううううううう
 ああああああああああ
 まままままままままま
 ねねねねねねねねねね
 こがめさうくまらりりりりりりりりり

右に名ありちりりりりりりりりり
 ちりりりりりりりりりりりりりり
 まままままままままままままま
 むむむむむむむむむむむむむむむ
 あああああああああああああああ
 のああああああああああああああ
 ううううううううううううううう
 あああああああああああああああ
 ままままままままままままままま
 ねねねねねねねねねねねねねねね
 こがめさうくまらりりりりりりりりり



原式十五編

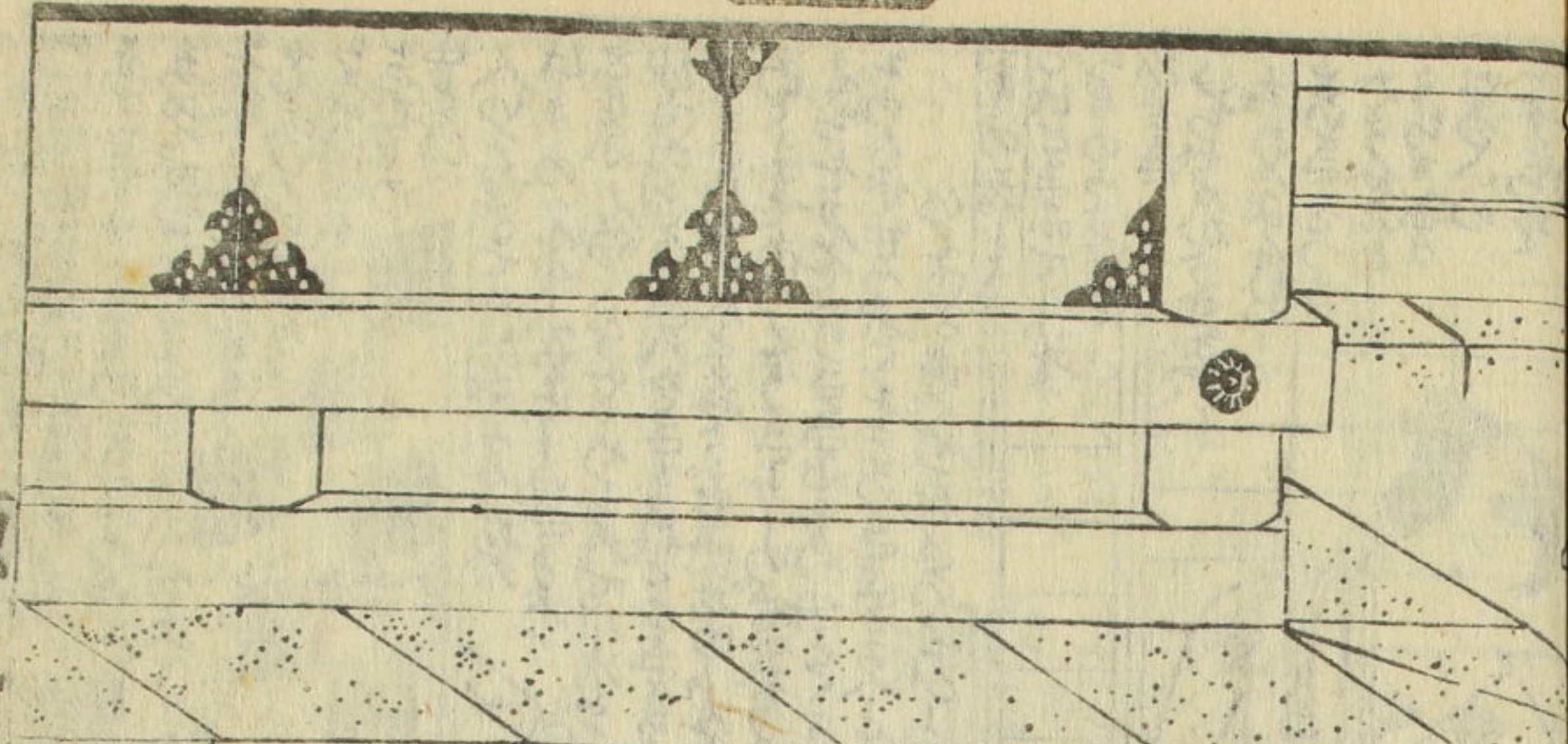
むむむむむむむむむむ
 あああああああああああ
 のあああああああああああ
 ううううううううううう
 あああああああああああ
 ままままままままままま
 ねねねねねねねねねねね
 こがめさうくまらりりりりり

ついで先氏のついでをま
らけいしついでをま
まのいしついでをま
るれが山名をいしつ
月をかくしついでを
ついでをかくしついで
先氏をいしついでを
あついでをかくしつ
るれが山名をいしつ

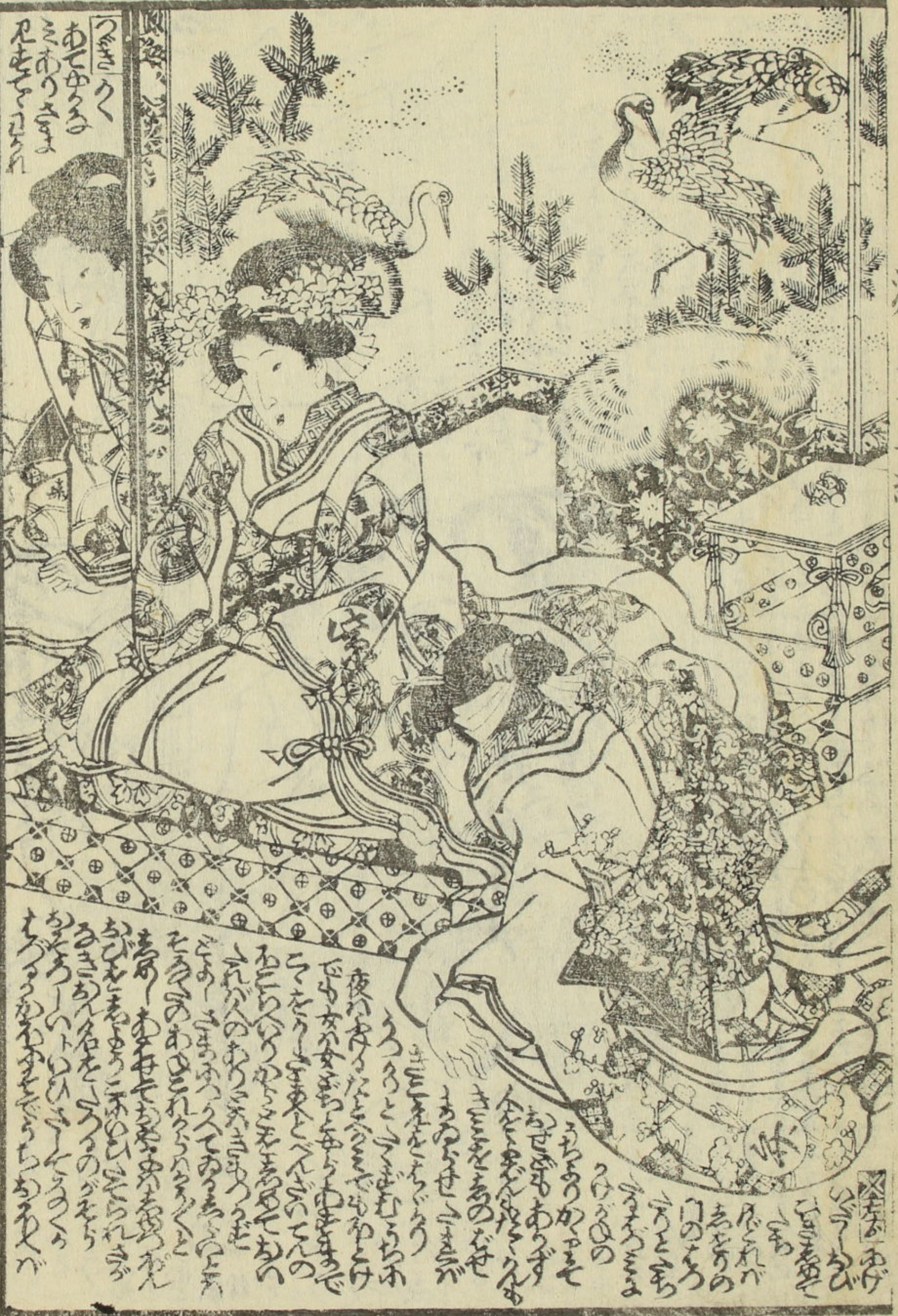
先氏を
るれが
あついで
まのいし
ついでを
かくしつ
いでを



●中かゝりの
日てまの夜の
まのいしついで
ついでをかくし
るれが山名を
あついでをかく
先氏をいしつ
あついでをかく
まのいしつ
ついでをかく
るれが山名を
あついでをかく
先氏をいしつ



先氏をいしついでを
あついでをかくしつ
るれが山名をいしつ
月をかくしついでを
ついでをかくしついで
先氏をいしついでを
あついでをかくしつ
るれが山名をいしつ



ついでに
あつちの
足まじり

源氏物語 五巻
この巻の
ついでに
あつちの
足まじり
ついでに
あつちの
足まじり



ついでに
あつちの
足まじり

源氏物語 五巻
この巻の
ついでに
あつちの
足まじり
ついでに
あつちの
足まじり



源氏下五編
 此の巻は源氏物語の
 五十二巻の事なり
 此の巻は源氏物語の
 五十二巻の事なり
 此の巻は源氏物語の
 五十二巻の事なり
 此の巻は源氏物語の
 五十二巻の事なり

源氏物語の
 五十二巻の事なり
 此の巻は源氏物語の
 五十二巻の事なり
 此の巻は源氏物語の
 五十二巻の事なり
 此の巻は源氏物語の
 五十二巻の事なり

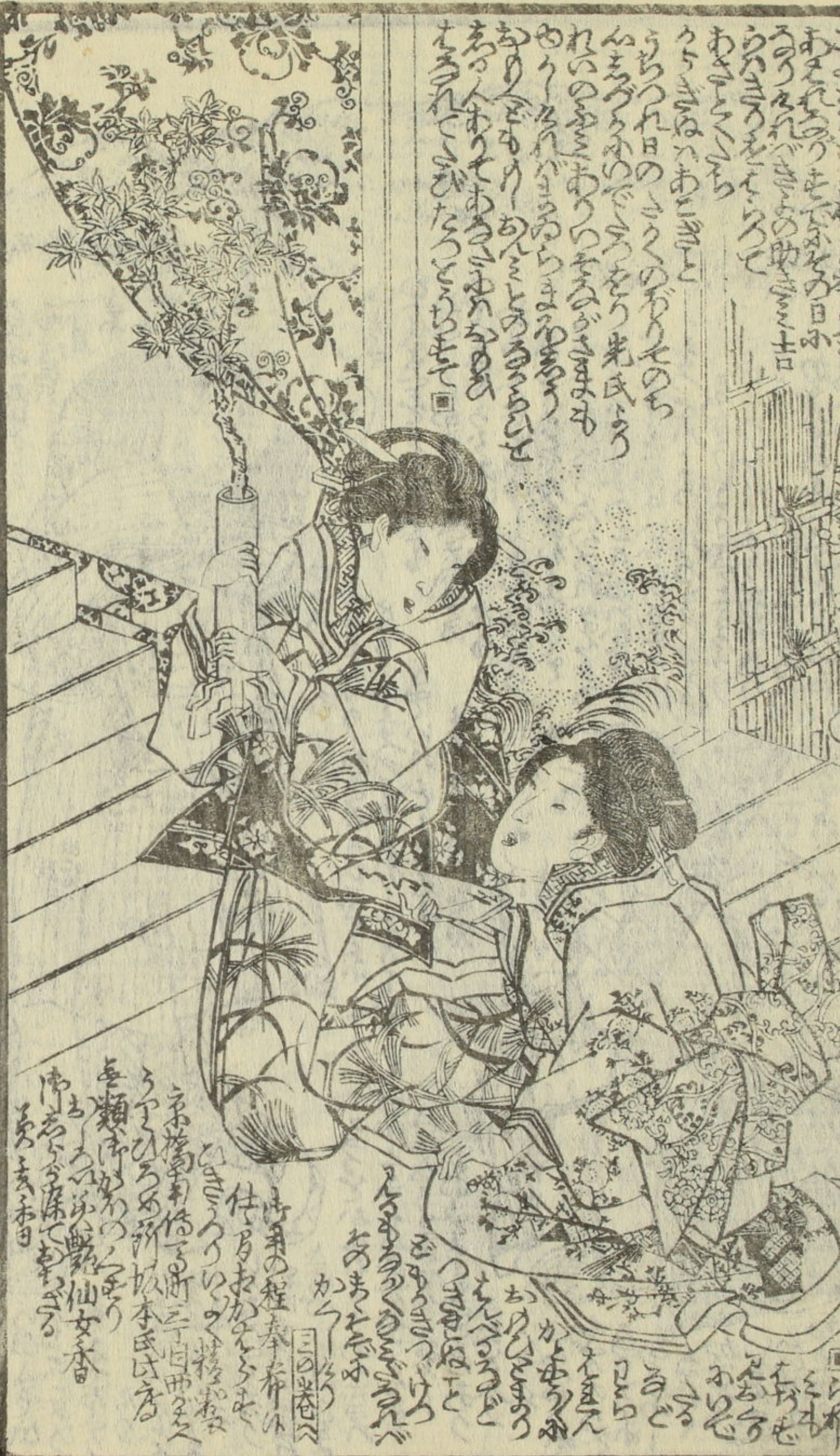


源氏下五編
 此の巻は源氏物語の
 五十三巻の事なり
 此の巻は源氏物語の
 五十三巻の事なり
 此の巻は源氏物語の
 五十三巻の事なり
 此の巻は源氏物語の
 五十三巻の事なり

源氏物語の
 五十三巻の事なり
 此の巻は源氏物語の
 五十三巻の事なり
 此の巻は源氏物語の
 五十三巻の事なり
 此の巻は源氏物語の
 五十三巻の事なり

國貞画種彦作

此の巻は、
 國貞の画、種彦の作。
 二人の姿、
 優雅に描かれ、
 背景の装飾も、
 精緻である。



此の巻は、
 國貞の画、種彦の作。
 二人の姿、
 優雅に描かれ、
 背景の装飾も、
 精緻である。

龍澤首民著

迎福南鍼録

一名相宅手引草
 全部五冊 近刻

右同著

雅俗百傳奇

大本全五冊 繪入
 平假名附 近刻

女消息往来

曆日講釋

俳諧今四歌仙

全一冊
 梅室 禾木 桐雨 小圃 四大人の
 作ゆく正風の俳調當時の流仍むを

劉金子先生著

全一冊

梅室 禾木 桐雨 小圃 四大人の
 作ゆく正風の俳調當時の流仍むを

全一冊
 梅室 禾木 桐雨 小圃 四大人の
 作ゆく正風の俳調當時の流仍むを

此の書は、
 龍澤首民の著、
 迎福南鍼録、
 雅俗百傳奇、
 女消息往来、
 曆日講釋、
 俳諧今四歌仙、
 劉金子先生の著、
 全一冊、
 梅室、禾木、桐雨、小圃、
 四大人の作、
 ゆく正風の俳調、
 當時の流仍むを

大書心書文
 古今の二幅の筆の流るる入るるの文をとりあへて
 其の流るるの筆の流るるの文をとりあへて
 其の流るるの筆の流るるの文をとりあへて

消息往来詳註 高井蘭山述 全一冊
 消息往来世の流るるの文をとりあへて
 其の流るるの筆の流るるの文をとりあへて

隅田川西岸覽 北齋筆 袋入 全三冊
 隅田川の西岸の流るるの文をとりあへて
 其の流るるの筆の流るるの文をとりあへて

江戸名所東鑑 黄齋筆 全三冊
 江戸の名所の流るるの文をとりあへて
 其の流るるの筆の流るるの文をとりあへて

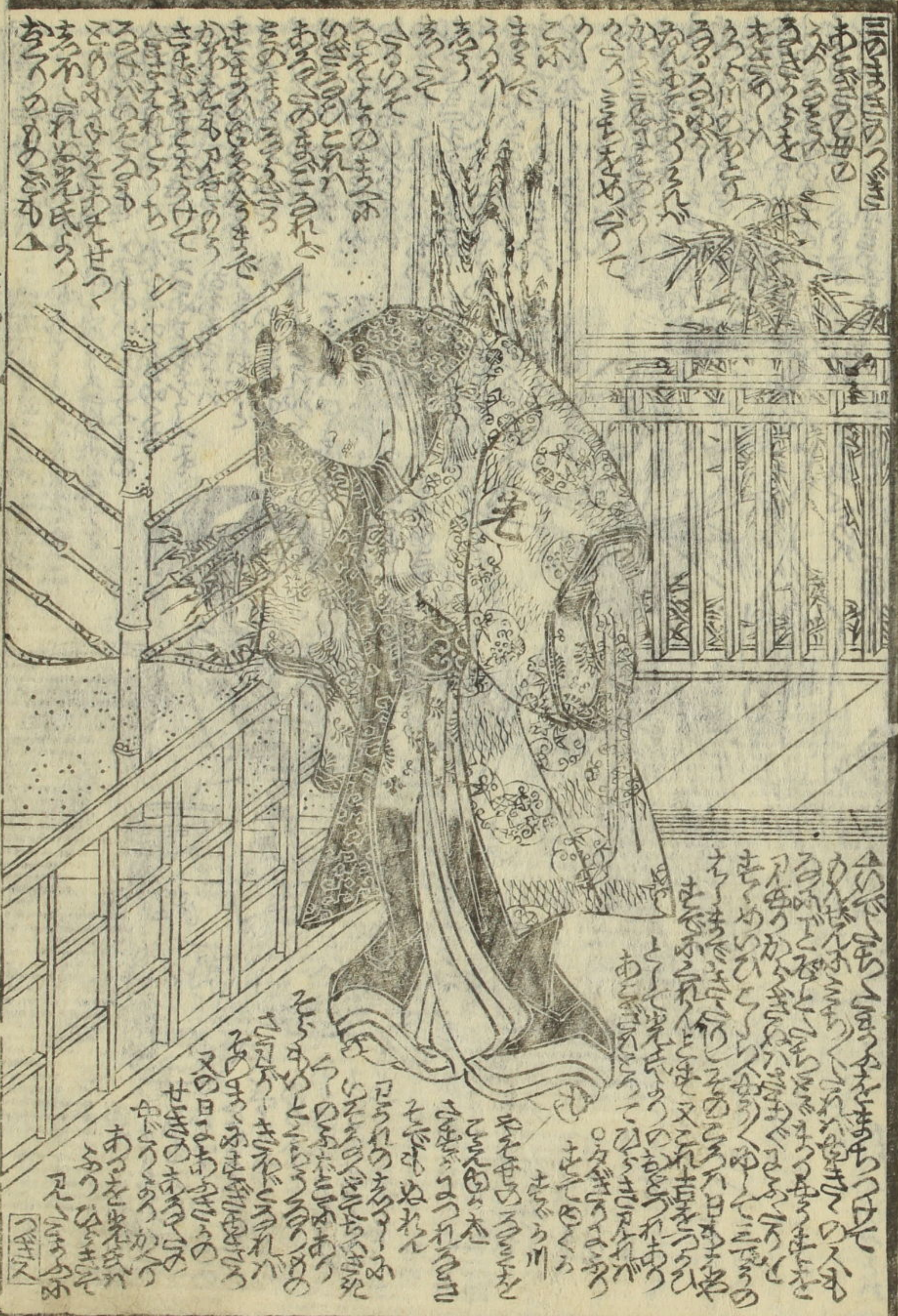
江戸名所物見 丘清長筆 全三冊
 江戸の名所の物見の流るるの文をとりあへて
 其の流るるの筆の流るるの文をとりあへて

東海道と花の都路 渚大人 狂歌 全三冊
 東海道の花の都路の流るるの文をとりあへて
 其の流るるの筆の流るるの文をとりあへて

戲場頭微鏡 黙々漢隱作 上帳二冊 下帳二冊
 戲場の頭微鏡の流るるの文をとりあへて
 其の流るるの筆の流るるの文をとりあへて

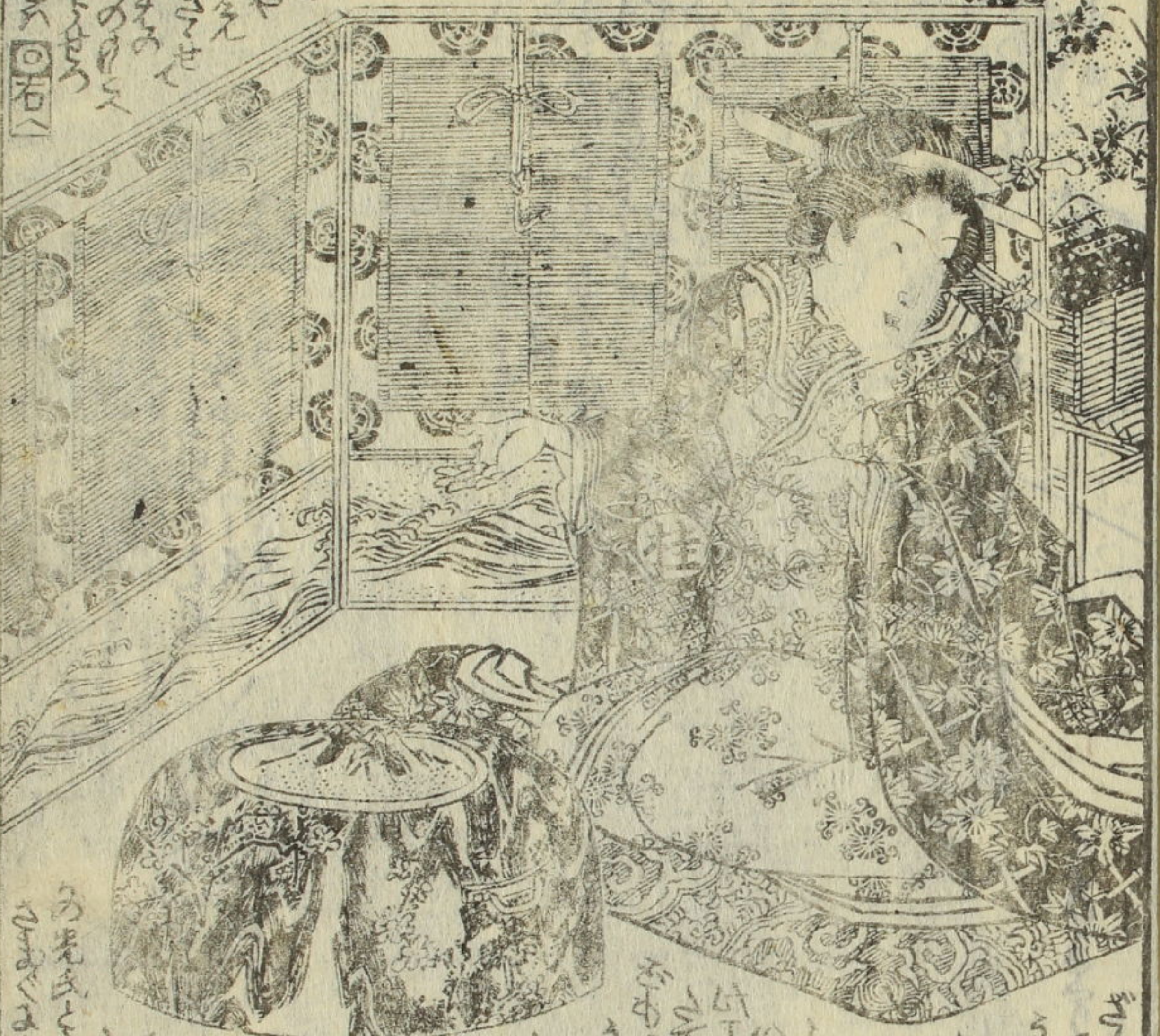
右五通り兵衛 上品に七多多難に仕立
 右五通りの兵衛の流るるの文をとりあへて
 其の流るるの筆の流るるの文をとりあへて

教真草消息往来 繪圖註入全一冊
 教真草の消息往来の流るるの文をとりあへて
 其の流るるの筆の流るるの文をとりあへて



源氏十五編

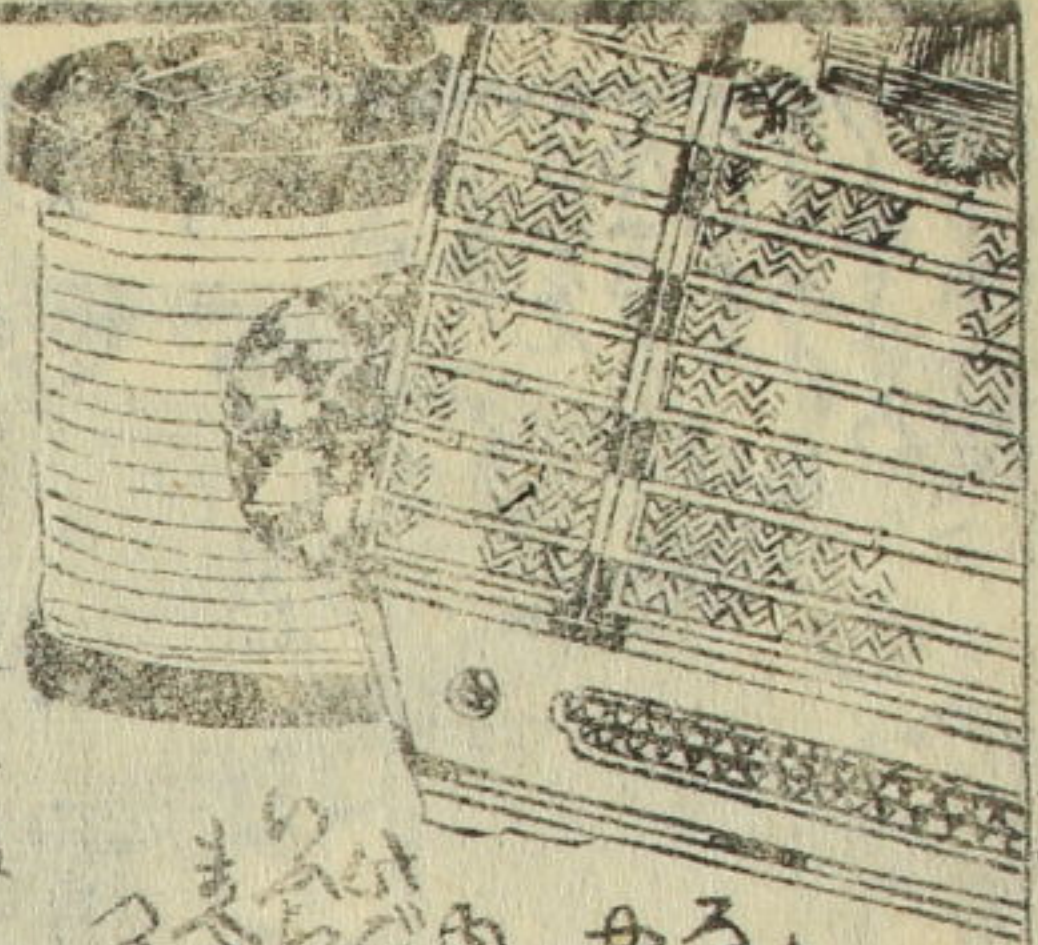
おのひえ
うめよませ
えんかすみ
ちうのりえ
おのひえ
そのいん
おのひえ
うめよませ
えんかすみ
ちうのりえ
おのひえ
そのいん



おのひえ
うめよませ
えんかすみ
ちうのりえ
おのひえ
そのいん
おのひえ
うめよませ
えんかすみ
ちうのりえ
おのひえ
そのいん



おのひえ
うめよませ
えんかすみ
ちうのりえ
おのひえ
そのいん
おのひえ
うめよませ
えんかすみ
ちうのりえ
おのひえ
そのいん



○あまのつゆのあまのつゆ
 まるごとく日影のほろほろと
 りてくさくさあまのつゆ
 ちかまのつゆのつゆ
 まるごとくあまのつゆ
 まるごとくあまのつゆ

○あまのつゆのあまのつゆ
 まるごとく日影のほろほろと
 りてくさくさあまのつゆ
 ちかまのつゆのつゆ
 まるごとくあまのつゆ
 まるごとくあまのつゆ

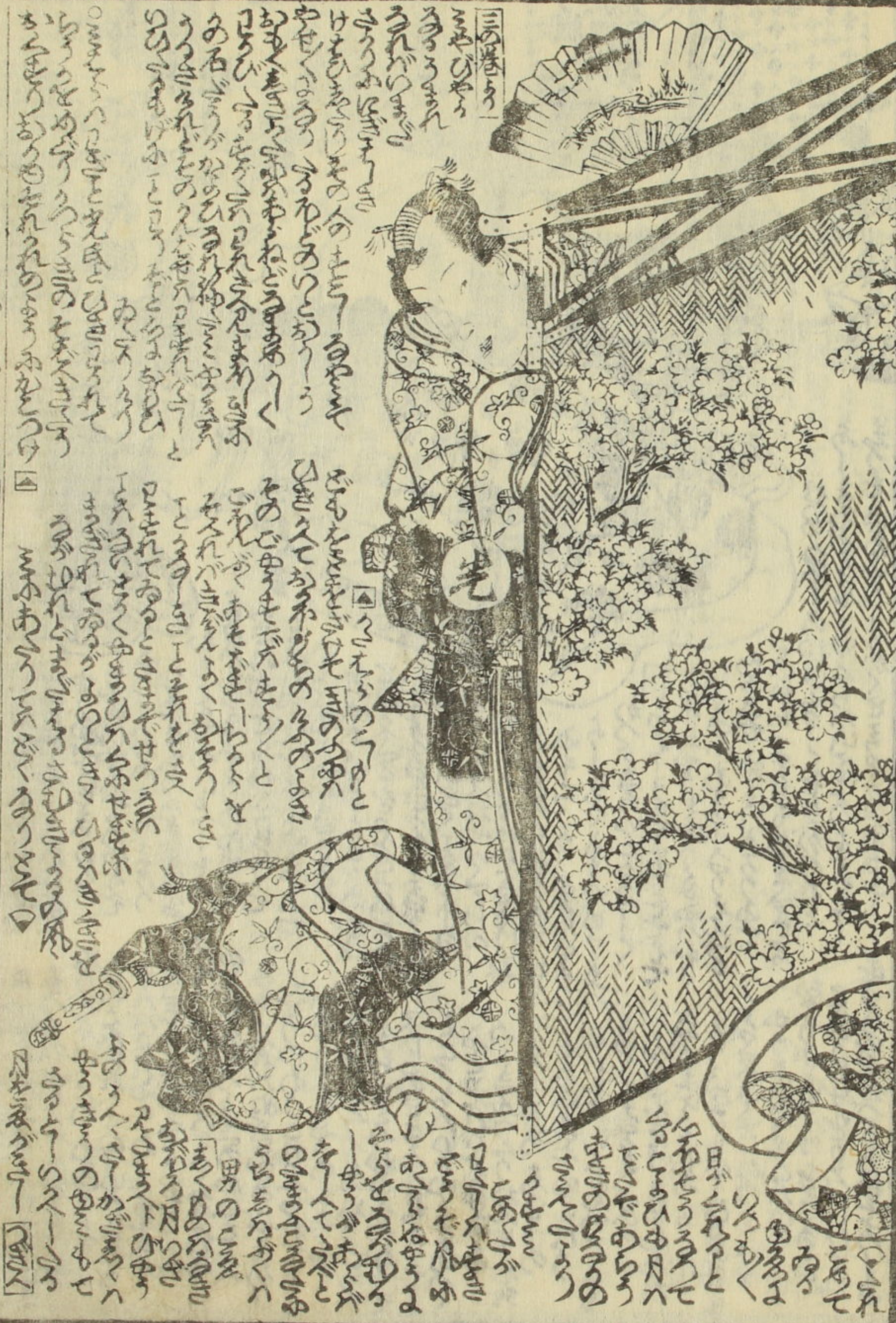


○あまのつゆのあまのつゆ
 まるごとく日影のほろほろと
 りてくさくさあまのつゆ
 ちかまのつゆのつゆ
 まるごとくあまのつゆ
 まるごとくあまのつゆ

○あまのつゆのあまのつゆ
 まるごとく日影のほろほろと
 りてくさくさあまのつゆ
 ちかまのつゆのつゆ
 まるごとくあまのつゆ
 まるごとくあまのつゆ



五壺の金剛衣及
 軍茶制
 源氏物語
 五壺

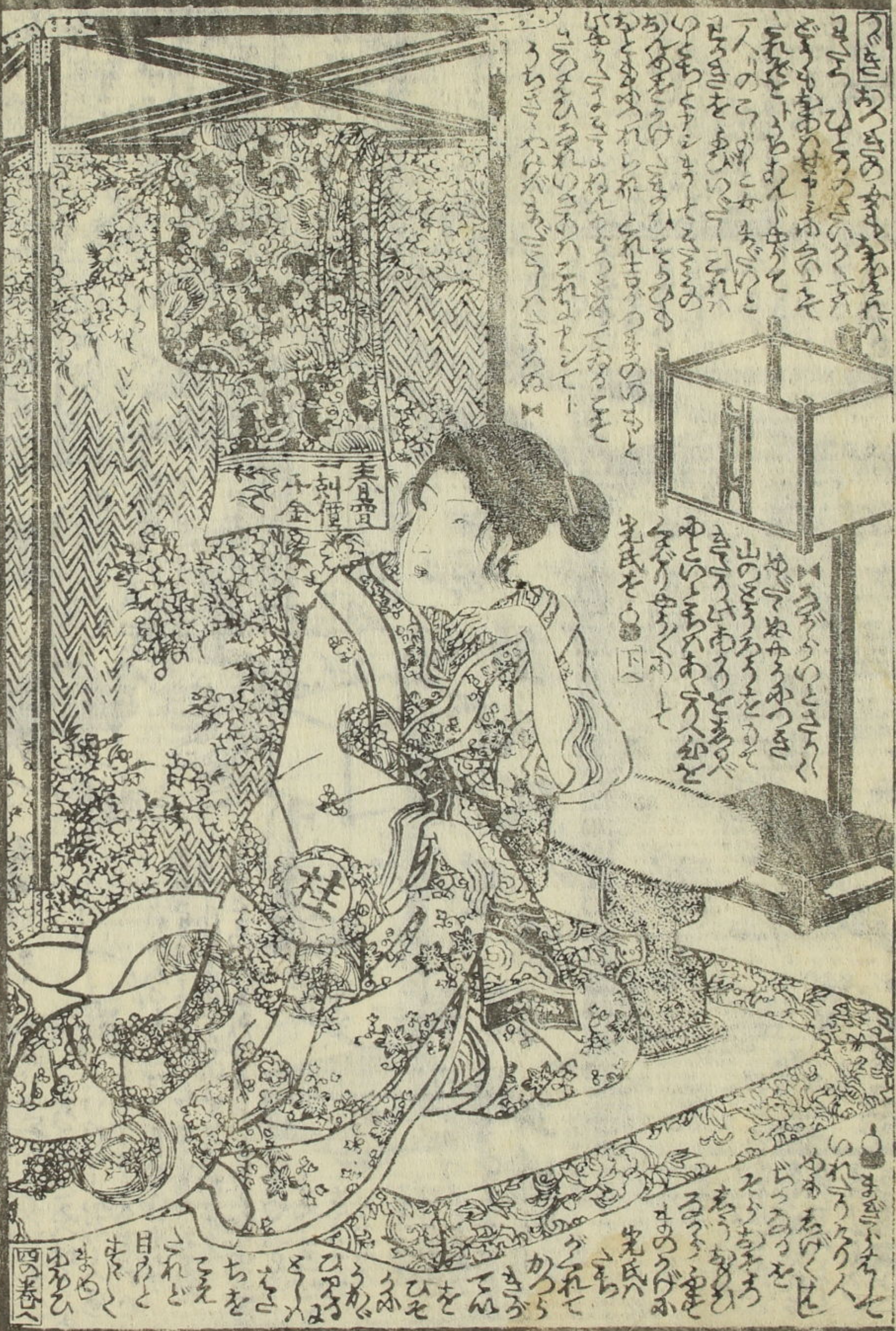


Vertical text columns on the left side of the upper illustration, likely describing the scene or characters.

Vertical text columns on the left side of the lower illustration, continuing the narrative or description.

Vertical text columns on the left side of the bottom illustration, providing further context or dialogue.

源氏十五卷



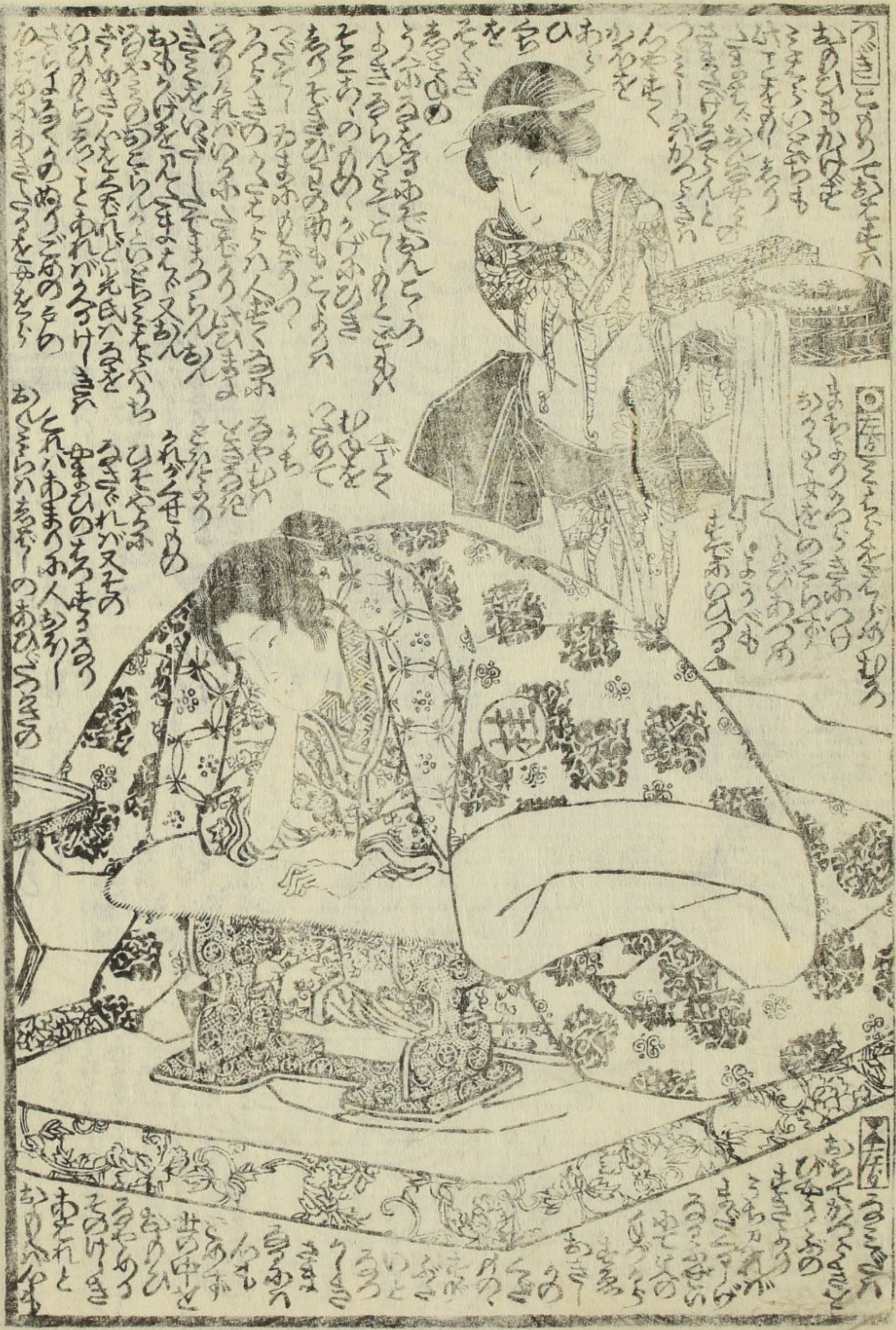
Vertical text columns on the left side of the upper illustration, describing the woman's appearance or the setting.

Vertical text columns on the right side of the upper illustration, likely dialogue or narrative.

Vertical text columns at the bottom of the page, possibly a continuation of the text or a summary.

源氏十五卷

十五



あつたてふかたは
 ままのさかた
 うつたてふかたは
 ままのさかた
 うつたてふかたは
 ままのさかた
 うつたてふかたは
 ままのさかた
 うつたてふかたは
 ままのさかた
 うつたてふかたは
 ままのさかた

あつたてふかたは
 ままのさかた
 うつたてふかたは
 ままのさかた
 うつたてふかたは
 ままのさかた
 うつたてふかたは
 ままのさかた
 うつたてふかたは
 ままのさかた
 うつたてふかたは
 ままのさかた

あつたてふかたは
 ままのさかた
 うつたてふかたは
 ままのさかた
 うつたてふかたは
 ままのさかた
 うつたてふかたは
 ままのさかた
 うつたてふかたは
 ままのさかた
 うつたてふかたは
 ままのさかた



あつたてふかたは
 ままのさかた
 うつたてふかたは
 ままのさかた
 うつたてふかたは
 ままのさかた
 うつたてふかたは
 ままのさかた
 うつたてふかたは
 ままのさかた

あつたてふかたは
 ままのさかた
 うつたてふかたは
 ままのさかた
 うつたてふかたは
 ままのさかた
 うつたてふかたは
 ままのさかた
 うつたてふかたは
 ままのさかた

あつたてふかたは
 ままのさかた
 うつたてふかたは
 ままのさかた
 うつたてふかたは
 ままのさかた
 うつたてふかたは
 ままのさかた
 うつたてふかたは
 ままのさかた



左の女は...
 右の女は...
 光...
 江戸...

光...
 江戸...

光...
 江戸...



柱...
 江戸...

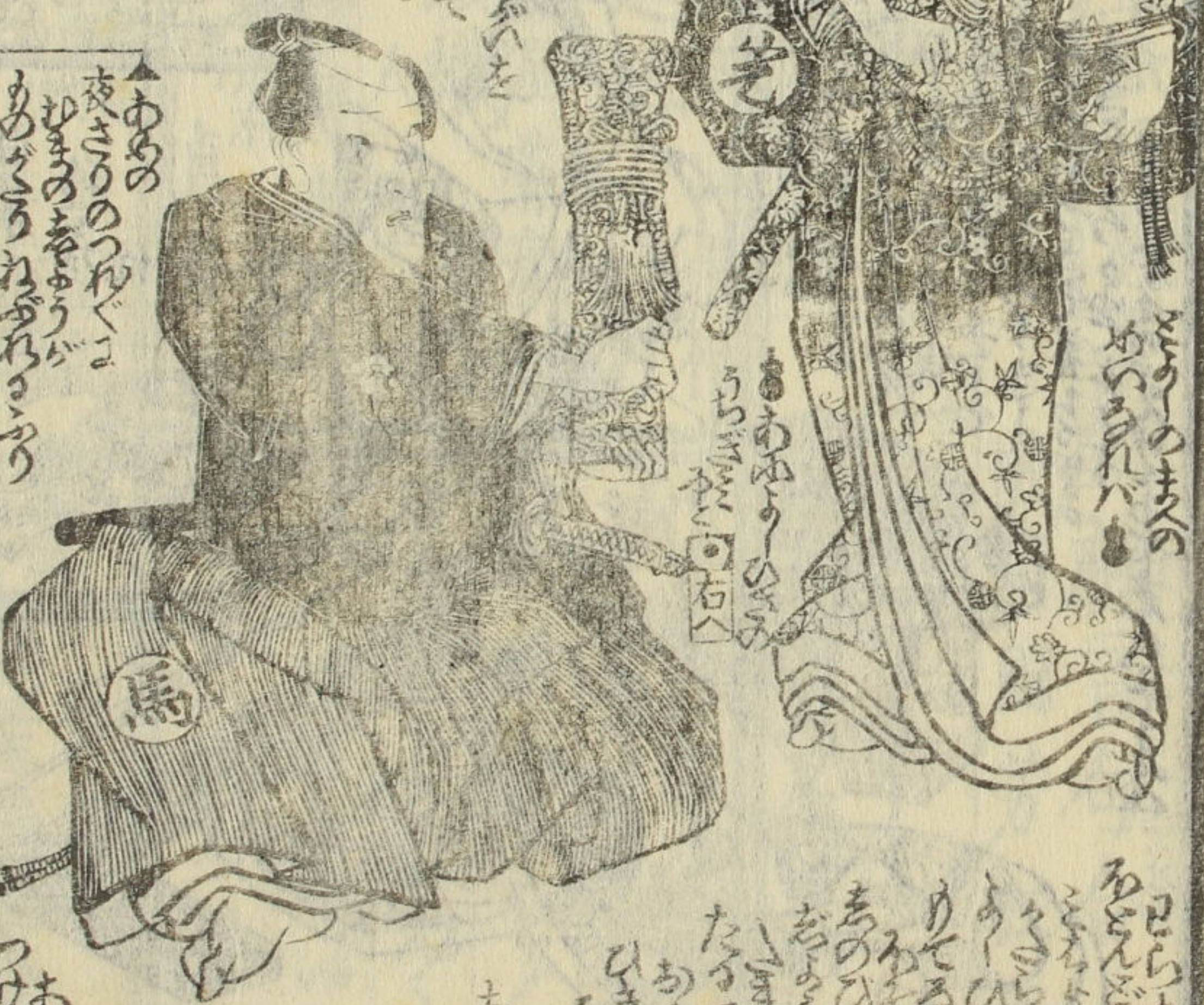
柱...
 江戸...

柱...
 江戸...

源氏物語の一場、下段に立つる侍と上段に立つる女御とのやりとり。手紙の授け渡りや、口上りの場面が描かれている。文章は和綴り、筆致は流麗である。



源氏物語の一場、右側に立つる侍と左側に立つる女御とのやりとり。侍は手紙を授け渡り、女御はそれを受け取る。文章は和綴り、筆致は流麗である。



源氏一五編

十一

